

例 言

- 1 独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所（当時）と大韓民国国立文化財研究所は、2011年4月1日に、「日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究」という題名で、日韓共同研究合意書を取り交わした。本書は、2015年度までの共同研究の成果を論文集として取りまとめたものである。
- 2 本共同研究では以下の4項目をあげ、本書にはこの課題に則した論考14篇を収録した。
 - (1) 日韓都城制の比較研究
 - (2) 都城・寺院・墳墓等における遺構・遺物の研究
 - (3) 古建築技法に関する復原的研究
 - (4) 遺跡の整備・復元手法に関する研究
- 3 本論文集は、日韓同時出版とし、韓国語版は『韓日文化財論集Ⅲ』として、大韓民国国立文化財研究所より出版されている。本書とあわせてお読みいただきたい。
- 4 韓国語論文の翻訳にあたっては、原文に忠実に訳すことを心がけたが、一部意識したところがある。誤解および誤訳があれば編集者の責に帰すものである。なお、韓国語の文献名については、読者の便宜を図るため、可能な範囲で漢字に改めた。
- 5 本書に使用した写真・図面の掲載にあたり、以下の関係各機関よりご高配を得た。
大韓民国国立文化財研究所、国立伽耶文化財研究所、国立中原文化財研究所、大韓民国国立中央博物館、国立金海博物館、国立扶余博物館、国立慶州博物館、忠南大学校百濟研究所、東京国立博物館、島根県立古代出雲歴史博物館、若狭町、明日香村教育委員会、出雲市、宮若市教育委員会、天理大学附属天理参考館、馬の博物館（順不同・敬称略）
- 6 本書の編集は都城発掘調査部が担当し、玉田芳英の指導のもと、清野孝之・諫早直人がおこない、校正には金田明大、山崎健、星野安治、川畑純、英文要旨の作成には Edwards Walter 氏（文化遺産部客員研究員）の助力を得た。